

## アンケートの考察

市民アンケート調査では、全体的に見て、西条市の自然や鉄道パーク、図書館などの公共施設が高く評価されていることが分かります。それに対して農山村部や河川水辺景観が以前と比べて悪いという評価でありました。石鎚山や身近に活用されているうちぬきの自然景観は年齢や地域を問わず愛着があることが言えます。景観に関する課題や対策に対しては、建物や工作物の制限や規制、空き地空き家対策、子ども達が安心して遊べる場所、清掃活動、自然環境保全などあらゆる角度からの課題と対策があげられました。これは、まちづくりの課題でも取り上げられていることです。市民の多数が良好な自然を望むことに対して、これらのまちづくりにおける課題を解決しなければ、良好な景観形成ができないことが分かります。様々な課題を解決する上で景観まちづくりルールは、必要不可欠であるといえます。美しい景観まちづくりのためには、自然環境の保全や美しいまちづくりの基盤となるような公共施設や街路樹・花などによる道路等の緑化を進めていくことが多数の意見でした。これから景観計画を策定するにあたって、住民と行政と企業が協働体制で行うことが大切ですが、それぞれ何ができるのか、役割を決めることも必要です。今回のアンケートではそれぞれの役割に関して、市民が行政に期待することは情報を提供してほしいという意見と人材育成があげられました。人材育成とは、誰でも参加できるボランティア団体や景観保全・保護者のことです。自然・歴史・生活と景観を分類していますが全ての分類に必要な要素です。住民は景観を守り育てていくことに関心はあるものの、時間や何をすべきなのかが分からないことが現状です。実際、まちづくり活動に参加している方は38.5%でした。参加されていない方でも、身近な敷地周りの清掃や町内会で行っている地域活動ならできると考えていることが分かります。企業・事業者に関しては、協議会などの話し合える場づくりや情報提供を行うことが必要だということが言えます。

未来へ残したい景観やこれからも西条市で暮らしていくために必要な景観としては、祭りや地域行事が全体の23.2%を占めていましたが、祭りの本質も含めて正しい知識も次世代へ繋ぐことが課題となっています。